

被災地からお礼の手紙 ひな人形で交流 姫路

兵庫県姫路市の女性グループの元に今月、宮城県南三陸町の母子から1通の手紙が届いた。被災地の保育園児向けに送った手作りひな人形へのお礼だった。津波で人形が流された子どものために - 。そんな思いで70代の4人が約110組を縫い上げた。「娘と家族に笑顔をありがとう」。感謝を伝える文面に、メンバーは「被災地が身近になったよう」と笑顔をみせる。

「ひな人形も流されたはず」と相談し、翌年のひな祭りに間に合うよう人形作りに励んだ。綿棒に黒い刺しゅう糸を付けて顔に見立て、正方形に切った着物の布で包んだ。仮設住宅で展示・保存しやすいようプラスチックの箱に1組ずつ収納。今年1月末、南三陸町で津波被害から残った志津川、伊里前保育所と名足保育園に計約110組を送った。

手紙が届いたのは3月11日を迎える3日前。伊里前保育所に長女彩峰ちゃん(3つ)が通う小野寺千鶴さん(33)からだった。夫婦で選んだひな人形は自宅と共に流されてしまったが、仮設暮らしのため新しい人形を買えずに悩んでいたという。

保育所から帰宅した彩峰ちゃんが「新しいおひな様 cameよ」と笑う姿を見て「何とかお礼を言いたかった」とすぐに手紙を書いたという。

手紙を受けた〇〇さんは「自分の趣味が被災地の笑顔になってくれてうれしい」。「ひな人形は女の子にとって特別なもの」と△△さん。□□さんも「被災地の様子をテレビで見るとやりきれない。ほっこりした気分になってほしかった」と喜ぶ。近くメンバーで返事を書き、息の長い支援を続けるという。

(2012/03/14 09:15)